

県士会 ニュース

No.239
[2026.6]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

TOPIC

重要 事務局のお知らせ P. 8

巻頭言	P. 1	カナドラ！《県士会ニュース出張版》	P. 4
2026年度県士会ニュース6月号地域社会振興部	P. 2	各部からの報告	P. 5
作業療法士募集（介護老人保健施設 横浜莫愁苑）	P. 2	理事会議事録	P. 7
2025年度 第3回 地域事業支援会議	P. 3	編集後記	P. 8



神奈川県作業療法士会入会案内 ◆新卒必見！

当会では昨年度より、「その年に作業療法士国家試験に合格した方が、当該年の12月末日までに正会員入会申し込みをされると入会金及び初年度年会費の納入が免除」となります。新卒者の経済的負担を軽減し、作業療法士の第一歩を後押ししたいとの思いから導入されました。県士会に入会されていない新卒者の方がいましたら、ぜひご紹介ください。詳細は神奈川県作業療法士会のウェブサイトをご覧ください。（文責 事務局 玖島弘規）

巻頭言

第7回神奈川県臨床作業療法大会に向けて、 多様なプログラム企画が進んでいます！

第7回神奈川県臨床作業療法大会 事務局 佐藤 範明（神奈川県立保健福祉大学）



第7回神奈川県臨床作業療法大会は神奈川県南東部の三浦半島に位置する横須賀市で開催されます。横須賀は「海と歴史が交差する街。異国情緒と自然あふれる街」と知られており、会場である「神奈川県立保健福祉大学」の目の前にも海が広がっています。大会当日は、神奈川県・横須賀市のグルメを堪能できる企画も検討しているのを楽しみにしていただきます。

本大会のテーマは「ニッチは、やがてプロフェッショナルへ」とし、キーワードの一つに、「ニッチ (niche)」という言葉掲げています。ニッチとは、決してマイナーで価値のない領域ではなく、誰かが光を当てることで初めて意味を持つ、小さくも確かな実践の居場所です（大会長挨拶より）。

小さくも確かな実践の積み重ねは、やがて専門性へとつながります。第7回神奈川県臨床作業療法では「挑戦してみよう！」と若手の作業療法士の背中を押せる、勇気づけられる場となるよう、実行委員一同、企画を検討しております。

他団体と協働し、魅力的な企画も準備しております。事前美術鑑賞会や各種プログラム企画は、今後もホームページやSNS、ポスターにてプログラム・コンテンツを情報発信してまいりますので、ぜひご注目ください。

多くの皆様からご発表いただけることを心よりお待ちしております。会場で皆さんと交流が図れることを楽しみに、「参加してみたい」「参加してよかった」と思っただけの大会を目指してまいります。引き続きよろしくお願いたします。

大会
ホームページ



公式 X



大会長 小砂 哲太郎
副会長 須藤 淳
実行委員長 須藤 淳
事務局 須藤 淳

大会プログラムをのぞき見



写真：鈴木竜一

本案内では、第7回神奈川県臨床作業療法大会の企画内容を一部ご紹介いたします。市民公開講座では、全盲の美術鑑賞家である白鳥健二さんを招聘し「全盲×横須賀美術館×作業療法～見えない部分に想像を膨らませる～(仮)」をテーマにご登壇いただきます。

また、2026年11月29日には市民公開講座のプレ企画として横須賀美術館との共催による白鳥健二さんとの事前美術鑑賞会も企画しております。



教育講演では、東京工科大学 医療保健学部教授の友利幸之介先生より「ニッチな関心をプロフェッショナルへ(仮)」というテーマでご講演いただきます。

さらに、大会企画として「地産地消」をテーマとした神奈川県の各地域の特色や取り組みの紹介、「OTとニッチなキャリア」と題してキャリアに関するプログラムを企画しております。

2026年度県士会ニュース6月号

地域社会振興部

地域人材育成研修会開催について

2026年3月1日(日)横浜YMCA専門学校にて地域社会振興部主催の地域人材育成研修会を開催しました。本研修会では「地域支援事業におけるOT活躍メソッド」をテーマに、地域で活躍するための視点や実践的取り組みを学ぶことを目的に、講義とグループディスカッションを実施しました。

午前は相模原市役所勤務のPTより「セラピストの協働による短期集中予防サービスの展開」についてご講義いただき、地域支援における役割と重要性を学びました。午後は横浜市青葉区の保健師より介護予防事業について学び、「ハマトレ」も体験しました。

当日は17名が参加し、病院勤務の作業療法士を中心に中堅からベテランまで幅広い層が集まりました。実践事例や行政連携について具体的な説明があり、「分かりやすい」「実際に参考

になった」との声が寄せられました。保健師の講義では多職種の視点や役割への理解が深まり、「新たな気づきにつながった」との感想も聞かれました。

グループディスカッションでは参加者同士が経験を共有し、活発な意見交換が行われました。他領域との交流を通じて視点の違いや地域資源、行政連携、ネットワーク構築の重要性について理解を深める機会となりました。

アンケートでは未経験者が多い一方で「今後関わりたい」といった意欲的な声が多く、本研修会は地域支援事業への第一歩となる有意義な機会となりました。今後も作業療法士の育成を目的に、実践事例の共有や交流の場を継続的に企画してまいります。引き続き、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。
(文責：地域社会振興部 大河内)



作業療法士 募集

介護老人保健施設 横浜莫愁苑

〒245-0051 横浜市戸塚区名瀬町2226-1

TEL. **045-814-8411** 事務長 橋本まで

Eメール：jimu@bakushuen.com

募集人員：【常勤】2名 【非常勤】2名

就労期間：即日～

応募資格：作業療法士免許を有する方

待遇：常勤または非常勤職員としての雇用

給与：【常勤】月給 260,000円～400,000円

【非常勤】時給 2000円～

手当：★継続勤務手当 ★扶養手当

勤務時間：月～土 8:45～17:45 まで

※非常勤頻度・時間等は相談に応じます

休日：日は休み 他シフト制

応募方法：電話連絡の上。履歴書(写真貼付)、免許証の写しをご持参ください。

News letter

一般社団法人 日本作業療法士協会
地域社会振興部 地域事業支援課 地域包括ケア推進班主催

2026年2月
Vol.3

神奈川県士会版

2025年度 第3回 地域事業支援会議

2026年2月15日、日本作業療法士協会による「第3回 地域事業支援会議」が開催されました。本会議では、協会の重点活動項目である「地域共生社会5ヵ年戦略」に基づき、地域で活躍できる作業療法士をいかに育成し、自治体事業へ戦略的に配置していくか、その核となる新研修システムの設計と展望について議論が交わされました。

求められるのは、地域を俯瞰する「ジェネラリスト」



つながる力



伝える力



ジェネラリスト



現在、社会保障の枠組みは、医療・介護の個別ケアを超え、住民一人ひとりが主役となる「地域共生社会」の構築へと大きく舵を切っています。こうした中、OTには単なるリハビリテーション技術の提供者ではなく、対象者の「活動と参加」を軸に、生活、就労、教育といった多様な分野を横断的に捉え、地域の中に居場所と役割を創出する「ゼネラルマネージャー」としての役割が強く求められています。

教育部および地域包括ケア推進班が設計を進める新研修システムは、「基礎」と「応用」の二層構造により、ジェネラリストへのステップアップを支援します。

地域包括ケア推進班の活動領域の広がり、高齢者支援にとどまらず、制度化された5歳児健診、学校教育領域への参画、障害児・者の就労支援、さらには障害者スポーツ活動の普及など、まさに「わがごと・まるごと」の地域共生社会を体現する多様な取り組みが展開されています。サイバネティックス社会の時代だからこそ、人間にしか担えない「つながる力」「伝える力」「多職種を繋ぐ調整力」がOTの核になると強調されました。新研修では、これらの対人・対社会スキルを強化し、「このOTに相談したい」と指名されるジェネラリストの輩出を目指します。

○グループワークの開催

後半は新しい研修会システムの構築に際し、現状の地域人材育成研修の実施内容や、今後の取り組みについて全国の方々と話し合いをしていきました。

神奈川県からの発言

神奈川県では、年4回地域リハ人材育成研修を県助成金により運営している。その内、2回は対面研修で地域支援事業の概要、行政とのコミュニケーションの取り方、コミュニティ支援、具体例、GWをしている。講師には、行政や保健師も立てている。今後は知識を得るから、実践する段階の研修を組むことが課題である。例えば、講話の練習の場、情報交換会などがあれば良いと考えている。実践者フォローとして、協会新規システムに合わせて、すでに取り組んでいる者が新規参加者をフォローするメンター制度を強化していく。今後も、病院から特に若手が踏み出す支援として提示していきたい。

編集後記

AIやICTが普及する時代だからこそ、私たち作業療法士に求められるのは、多職種や地域住民を繋ぐ人間味のある「調整力」「優しさ」ではないでしょうか。本会議で議論された「ジェネラリスト」へのステップアップは、神奈川の地域ケアをより豊かにする大きな一歩になると確信しています。メンター制度の活用など、会員の皆さまが安心して地域活動に参画できるよう、士会としても皆様の新たな一歩をサポートしていきます。

神奈川県士会 地域社会振興部副部長：石川恵美子

カナドラ！《県士会ニュース出張版》

「まだ運転できるはず」にどう向き合うか

—自動車運転支援におけるOTの役割—



神奈川県自動車運転に
関するアンケートはこちら



ブログ版カナドラは
こちら

制度対策部自動車運転班 渡辺 謙斗

自動車運転支援を行っている、臨床現場では、運転機能評価の結果から医学的には再開が難しいと判断される一方で、本人がその結果に納得できない場面に直面することが少なくないと感じます。私自身も運転支援に関わる中で、何度もこのような場面を経験してきました。そこで今回は、このような場合に作業療法士としてどのように関わっていくかについてお伝えできればと思います。

自動車運転再開の可否については、最終的な判断は免許センターで行われます。しかし、実際の臨床では机上検査やドライビングシミュレーター（DS）での評価を実施した段階で、再開が難しい可能性が高いことを本人へ伝えなければならない場面が少なくありません。診断書の内容によっては免許センターでの臨時適性検査においても通過が難しい事が想定されるため、現実的な見通しを共有する必要があります。この「まだ可能性がある・どうしても再開したいという思い」と「現実的には難しい状況」との間に生じるギャップが支援の難しさにつながります。

こうした場面で本人が納得できない背景には、認知機能低下に伴う自己認識の低下に加え、「メタ認知」の問題が関与しているといわれています。メタ認知とは、自身の状態や行動を客観的に捉え、適切に評価・修正する能力を指します。この力が低下すると、たとえDSでヒヤリハットを経験しても十分に振り返り自身の運転能力として見直すことが難しくなり、「まだ運転できる」という認識が変わりにくくなります。長年の経験により運転操作は無意識的に行われるようになり「これまで問題なく運転してきた」という経験は大きな自信につながっていることが多いため、多少の変化があっても「大丈夫」と受け止めやすくなります。特に運転歴が長く無事故で過ごされてきた方ほど、この傾向が強くみられることがあります。さ

らに運転が生活の一部になり、その方の役割そのものとなっている場合にも「できない」と伝えられることは心理的にも大きな影響を及ぼします。

このような状況において、評価結果を伝えるだけでなく「どのように伝えるか」という視点が重要になります。神経心理学検査の結果だけでは納得につながりにくいため、DSなど実際の運転場面に近い形で課題を共有することが有効とされています。また、DSを有していない場合でもJAF（日本自動車連盟）のウェブサイト上に公開されている「危険予知トレーニング」等を活用することも一つの方法です。具体的な運転場面における課題を可視化することで、本人の気づきを促す要因を増やすことができます。さらに重要なのは「運転が可能か否か」という判断だけでなく、その後の生活をどのように支えていくかという視点です。仮に運転が難しい場合でもこれまでのカナドラ！でもお伝えしてきたように、代替手段を提案することで生活の継続につなげることができます。併せて家族との情報共有を行い、同じ方向を向いて支援できるよう関わることも重要です。

自動車運転支援は身体機能や認知機能の評価のみで完結するものではなく、対象者の生活背景や価値観、家族関係を含めて関わる重要な支援です。「その人らしい生活をどう支えるか」を一緒に考えていくことが、作業療法士に求められる役割ではないでしょうか。

今年度も自動車運転班では、引き続き免許センターや教習所協会等との連携を図りながら、皆様に情報発信を行っていきたくと考えています。自動車運転に関するご相談や共有事項がありましたら、県士会自動車運転班までお気軽にご連絡ください。今後も研修会やブログ等での情報発信を行ってまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

各部からの報告

▶ 教育部

連載 第2回☆認定OTの世界をのぞいてみた☆

～教育部長インタビュー日記～

「認定作業療法士って、実際どうなんだろう？」

資格の名前は知っていても、取得後に何が変わるのか、どんな意味があるのかは、意外と見えにくいものです。今回お話を伺ったのは、決して華やかな成功談を語る方ではありません。むしろ、研鑽の現実や、自分自身への厳しい視線を率直に語っていただきました。認定OTは魔法の資格ではなく、取得した瞬間に何か劇的に変わるものでもない——。それでもなお、この資格が日々の臨床の姿勢や、自分自身との向き合い方に、静かな変化をもたらしたことが、言葉の端々から伝わってきます。

「どうせ学び続けるなら、意味を持たせたい」

そんな、等身大で誠実な動機から始まった一人の作業療法士の歩みを、ぜひ“のぞいて”みてください。

Q1. 認定作業療法士を目指そうと思った最初のきっかけは？

当時を振り返ると、OT協会や県士会の講習会に参加し続ける中で、その学びに自分なりの「意味」や「手応え」を持たせたいと感じていました。研鑽は専門職として当然の責務ですが、どうせ学び続けるのであれば、その積み重ねが「形」として残る道を選びたい。そんな現実的な視点と職業的良心の間で考えた結果、「認定作業療法士を目指す」という選択に至りました。

Q2. 認定OT取得までに特に苦労した点・工夫した点はありますか？

当時は、複数の事例を提出し、すべて審査で合格する必要がありました。当然、一度で通ることはなく、何度も指摘を受け、書き直しを重ねる過程が続きました。特別な工夫をしたというよりも、指摘を受け止め、諦めずに出し続けたことが、結果的に一番の工夫だったと感じています。

Q3. 認定作業療法士になって、どんな変化がありましたか？

認定を取得したからといって、臨床能力が突然跳ね上がったり、待遇が大きく変わったりするわけではありませんでした。ただ、取得後は「認定作業療法士」という肩書きが、良くも悪くも自分の行動を律する存在になったと感じています。曖昧な判断や惰性の実践に対して、「認定を名乗る自分として、それでよいのか」と自然と自分に問いが立つようになりました。いわば、日々の臨床にセルフ監査がかかる感覚です。また、これまでの積み重ねが一定の評価として認められたことで、作業療法士としてのさやかな自信につながっていたとも思います。

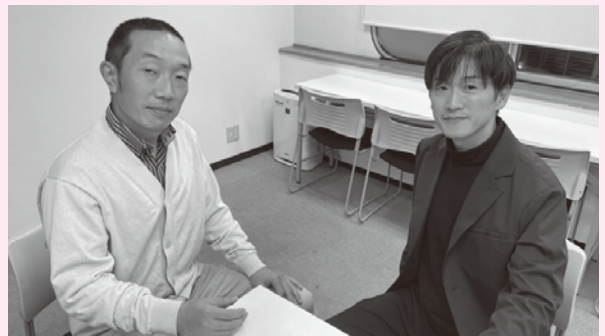
Q4. 認定取得を迷っている人に、「まずはこれだけやってみて」と勧めたい一歩は？

資格取得を意識する前に、まずは自分の実践を事例として丁寧にまとめ、第三者からフィードバックを受けてみることを勧めます。臨床を言語化し、理論で整理し、他者の視点にさらされる経験は、資格の有無に関わらず、確実に臨床力を育ててくれます。

Q5. 認定OTの学びの中で、価値観が変わったことはありますか？

価値観が劇的に変わるような出来事があったわけではありません。むしろ、認定資格はあくまで「ラベル」であり、その中身をどう育てるかは、日々の臨床への向き合い方と学び次第だという考えが、よりはっきりしました。認定OTの学びは、自分の作業療法を丁寧に点検し続ける姿勢を静かに支えてくれる枠組みだったと感じています。

今回のインタビューは、「認定作業療法士とは何か」を、最も誠実な形で語ってくれていると感じました。認定OTは、取得すれば自動的に臨床力が上がる資格ではありません。また、肩書きがあれば安心できるものでもありません。しかし、この方が語ってくれたように、「認定を名乗る自分として、それでいいのか」と自分に問い続ける姿勢こそが、認定OTの本質なのだと思います。研鑽を積み重ね、事例をまとめ、フィードバックを受け、その過程で自分の臨床を何度も点検する。その積み重ねが、派手ではないけれど、確かな自信となり、日々の作業療法を支える土台になっていきます。認定作業療法士を目指すことは、「特別な人になる」ことではなく、自分の実践に、もう一段誠実に向き合う覚悟を持つことなのかもしれません。このインタビューが、「今すぐでなくてもいい」「でも、いつかは挑戦してみたい」そんな気持ちを抱ききつかけになれば幸いです。



写真左：村仲隼一郎さん

茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 専任教員 ふれあい平塚ホスピタル、康心会伊豆頭部総合病院を経て現職、7年目に認定作業療法士を取得。

写真右（インタビュアー）：神保洋平（県士会理事 教育部長）

▶ 教育部

連載 教育部 MTDLP推進育成課からのお知らせ

MTDLP実践者・指導者の推進育成支援に関して

梅雨空の広がる季節となりました。あじさいが色づき、雨の日も増える時期ですが、こうした季節だからこそ、対象者の暮らしや生活行為に丁寧に目を向ける視点が、あらためて大切になるように思います。

MTDLP推進育成課では現在、MTDLP実践者の育成支援と、MTDLP指導者の育成支援を二本柱として取り組んでいます。実践者支援では、基礎研修と実践者研修を修了し、現場で活用できる人材を増やしていくことを目指しています。また指導者支援では、協会の口頭試問合格を見据え、次の世代を支える人材の育成にも力を入れています。4月からは新たに指導者が課員として二名加わり、推進育成体制もかなり整いつつあります。

士会員の皆様への推進育成方法としては、課員が現場に伺い、MTDLP実践者修了に向けた支援を行う組織単位での支援と、ご希望に応じて個別に支援を行う方法があります。職場全体で進めたい場合にも、まずは個人で相談したい場合に

も対応可能です。事例の進め方や書き方、実践の中で生じやすい悩みについても、状況に応じて一緒に整理しながら推進育成してまいります。

また、本年度の臨床作業療法大会では当課によるワークショップ企画を予定しており、MTDLPをより現場で活かせる形で学べる機会にしたいと考えています。さらに、ZOOMを用いたプレ企画も予定しており、事前に理解を深めたり、実践のイメージを持ったうえで参加したりできるよう準備を進めています。MTDLPを学んだ後、「現場でどう活かせるよいか分からない」「次の一歩が踏み出しにくい」と感じる場面は少なくありません。そのような時に、会員の皆様の身近な相談先として機能できるよう、今後も課員一同で取り組んでまいります。基礎研修が修了しているが、まだ実践者研修されていない方、ぜひ、MTDLP推進育成課までお声掛け頂ければと思います。

(文責 教育部・MTDLP推進育成課 担当理事 村仲隼一郎)

▶ 広報部

【情報発信課】

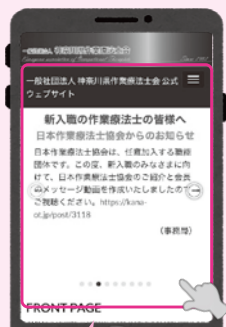
ウェブサイト管理班 県士会サイト
コンテンツ紹介

県士会サイトでは、会員の皆様に日々有益な情報が届くよう運営に努めております。研修会や求人情報のみならず、業務で活用できる情報や様々なコンテンツを用いることで情報発信を行っております。

また、県士会サイトは神奈川県内の情報のみならず、日本作業療法士協会からの会員への情報発信や、他団体、行政などからの情報も事務局を通じて発信を請け負っております。今回は忙しい日々の業務の中でも、**簡単に様々な情報がキャッチできる**方法を2つお教え致します。

(文責 広報部 佐藤範明)

図) 【スライダー掲示板】
(スマホVer.)



スマホトップページに掲載されている。1タップで目的のページに辿り着ける!! フリックすることで他の情報も見れる!

図) 【更新履歴】(スマホVer.)



右上の≡マークをタップ! 「更新履歴」をタップすることで過去の掲載情報を確認できる!

▶ 学術部

学術部主催の**対面研修**を
済生会東神奈川リハビリテーション病院にて
開催しました!

脳卒中後の上肢麻痺に対するリハビリテーションについて、最新の研究知見を踏まえた臨床実践の考え方が紹介されました。特に、根拠に基づいた実践 (Evidence-Based Practice : EBP) の視点から、研究で得られたエビデンスを臨床にどのように統合していくかについて講義がありました。近年の研究をもとに、臨床現場における介入戦略や課題設定の工夫について具体的に説明があり、とても参考になりました。講義の間にはグループワークが設けられ、参加者同士で課題分析や臨床推論の視点について意見交換を行う機会となりました。さらに、研修の最後には実技が行われ、講義で示された介入の考え方を実際の動作や治療場面を想定しながら確認することができました。理論的知識と臨床実践を結び付けて理解する機会となり、日々の臨床に活かすための実践的な学びを得ることができました。

(文責 佐藤光)



理事会議事録

★ 2025年度 3月 理事会 議事録

日 時：2026年3月12日（木）19：00～20：43

開催方式：オンライン

場 所：各自自宅または職場

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、奥原孝幸（副会長）、遠藤陵晃（副会長）望月強併（事務局長）、玖島弘規、神田崇央、澤口勇、野本義則、佐々木秀一、神保洋平、村中隼一郎、佐藤隼、佐藤範明、石川恵美子、佐伯まどか

出席監事：錠内広之、野々垣睦美

欠席理事：青木啓一郎、山勢健太郎

I. 会長より挨拶

神奈川県議会において作業療法（士）に関する質疑がされており、黒岩知事より「街角作業療法士の設置」についての回答がありました。今年度取り組んできた県庁訪問が徐々に実を結んでいるかと思えます。

また日本作業療法士協会の動きとして、5月30日（土）に社員総会が開催され、翌5月31日（日）に偲ぶ会が開催される予定となっています。

II. トピックス（選挙管理委員会）

- 2026年度事業計画・予算案について
全部署から再度提出された内容を三役会にて確認を行なった。例年の事業を継続しつつ新規事業も含まれている。予算についても確認を行い、当会の財政状況で問題ないことを確認した。
➔賛成多数で承認
- よんぱち報告について
①日本作業療法士協会理事竹中副会長が2028年参議院選挙に立候補予定となっている。
②日本作業療法士協会の代議員選挙においてもクォーター制を導入していく方針。
③「よんぱちだからできること」としてブロック別WGが設置された。関東甲信越ブロック代表として当会神保会長が推薦された。取り組みとしては、新入会員獲得に向けた取り組みや学生と有資格者をつなぐ架け橋を担っていく。
- 神奈川県医療関連団体連絡協議会について
神奈川県の医療関連団体との連携強化を図るため、協議会設置の打診があった。まずは看護協会が主体となり活動を行なっていくが当会としても参加しても良いのではないか。本年8月2日に「進路発見セミナー」の開催を検討しており、当会の参加依頼も来ている状況。医療職が連携をとりながら人材確保に繋げていける活動だと思われる。まずはセミナーへの参加の可否について審議を行いたい。
➔賛成多数で承認
- ACVS委員会発足について
神奈川県内の脳神経外科医、脳神経内科医が中心となり脳卒中の前触れ発作（ACVS）に対する啓発活動を行なっている団体。ACVSに関する啓発活動に多医療職で取り組んでいきたいとのことで当会にも協力依頼があった。多職種合同で県民への啓発を進めていく予定。まずは当会として参加協力していくか否かを審議し、賛成の場合は委員1名の推薦をお願いしたい。
➔参加協力について賛成多数で承認。委員の推薦については後日情報収集を行う。
- 部員の手当について
部員の手当についてアンケートを実施した。審議は4月に行う予定のため、それまでに各自アンケート結果を確認し、それを踏まえた上で4月の審議に臨んで頂きたい。

III. 審議事項

- 定款・規程変更について
会員規程（登録氏名）第5条において旧姓使用及び責任について明記した。選挙管理規程（氏名の取扱い）第3条において旧姓使用及び責任について明記した。

- ➔賛成多数で承認
- 県学会運営スタッフ区分について
実行委員、OTスタッフ、学生スタッフ、外部スタッフの4区分とした。それぞれに区分ごとに待遇を設けた。基本的には参加費免除（OTスタッフ以外）、交通費支給、昼食支給、謝金原則なしとなる。
OTスタッフの公募については県士会ウェブサイトの活用や声かけで集める。謝金についても原則はなしとする。
学生スタッフについても演題が聞けるような対応がいいのではないか。
➔賛成多数で承認
- 県学会運営システムについて
アンケート結果を共有。三役会では実行委員の負担軽減を中心にシステムを検討し、様々な業者を使いながら使用感を確かめて行ってもいいのではないかと意見が挙がった。
➔運営システム osca の導入について賛成多数で承認。
- 平塚市介護審査会委員推薦について
現在委員の田中雅士氏（関東中央病院）を継続して推薦する。
➔賛成多数で承認
- 研修会費規程について
「研修会参加費設定・運用マニュアル(仮)」について共有。基本的には1時間当たりの金額設定として、区分に応じて金額が変動する。
マニュアルと異なる金額にする場合は理事会承認とする。懸念事項としては金額が上がることで参加者数が減少することが予想される。そのため効果検証を行い状況確認を行っていく。マニュアルで運用ではなく規程に変更する。
➔賛成多数で承認

IV. 報告事項（各部署・理事・三役）

- 理事会資料提出方法変更について
Google ドライブ内のエクセルシートに直接入力する方法へ変更。4月度理事会資料から運用開始。
- メールサーバー移行について
メールサーバーの移行が完了した段階で県士会 Google アカウントでの運用を開始する。それに伴い Slack は閉鎖し Google に統一していく。
- 日本作業療法士協会地域社会振興部の報告について
「第三回地域事業支援会議」について資料を用いて共有。2026年度重点施策、アクションプランについて説明。制度対策部との協業となる5歳児健診や学校作業療法室に関する方向性などについて共有された。今後、地域では身体のみでなく精神・発達領域へのOT参画を目指してほしい。2026年度第一回地域支援事業会議にて改めて構想を話す予定。これからは発達／障害／高齢／困窮／就労を丸っとみれる専門職が求められる。

【その他報告部署・理事】

- 代議員選挙について
Aブロック、Bブロックともに定数に達した。
- 会員ワーキングからの報告について
定期社員総会での報告を作成している。総会において活動の報告を行う予定。
- 2026年度定期社員総会について
2026年5月10日（日）午後から開催。詳細の集合時間やタイムスケジュールについては後日案内予定。
合わせて議案書の作成も期日までをお願いしたい。
- 2026年度定期社員総会について
2026年4月4日（土）に実施予定。期日までに監査書類を作成し提出をお願いしたい。

V. 報告事項（各部署・理事・三役）

錠内監事
色々な課題に向き合い解決して来れたと思う。もう少しで任期中の1年が終わるが次の1年もぜひ積極的に取り組んでいてもらいたい。
野々垣監事
研修会の講師謝金については今までも議論されてきていたが参加費については議論が少ない状況であった。とても前向きな検討ができていていいと思う。また事務局の負担軽減で資料変更などもぜひ進めてもらいたい。
監査書類についてはくれぐれも不備がないように準備して頂きたい。

文責：玖島弘規

重要 事務局のお知らせ

2026年4月1日より新システム「会員管理システム」の利用を開始します。
会員情報の確認・登録（仮メールアドレス、仮パスワードの修正）を完了いただきますようお願い申し上げます。

ログインID

生年月日
(西暦) + OT協会
番号 + @example.com

例) 1991年4月1日生まれ OT協会番号12345の場合

➡ 1991040112345@example.com

初回パスワード

生年月日
(西暦) + kana-ot

例) 1991年4月1日生まれの場合

➡ 19910401kana-ot

※会員情報修正点について

会員情報の確認・修正

仮パスワード：初回ログイン時に会員情報と一緒に変更可能です。

仮メールアドレス：会員情報登録後に、マイページの登録内容変更からご自身のメールアドレスに変更をお願いします。

支払方法のご登録：口座引き落とし/クレジットカードのみ

お問い合わせ mail : kaiin@kana-ot.jp 件名「新システムについて」 神奈川県作業療法士会 事務局

編集 後記

今月号がお手元に届く頃、いよいよ2026年度の診療報酬改定がリハビリ分野でも施行されます。改訂への対応で、運営変更には奔走された方も多いのではないのでしょうか。今回の改訂は、訓練室だけでなく、生活の場でリハビリを行うことを求められています。慌ただしい6月となりますが、共にこの転換期を乗り越えていきましょう。(まつ)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (239号) 2025年6月発行(年6回発行)

発行責任者 神保 武則

編集責任者 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)

編集担当 山岡 洸(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(悠の木株式会社) /

丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)

松井 洋鷹(浏野辺総合病院) / 碓屋 瑛理(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号

TEL/FAX : 045-663-5997

月火水木金 10 : 00~15 : 00

メールアドレス : jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> ➡ 作業療法 神奈川県 検索

Facebook

<https://www.facebook.com/kaotwebkan>

X

<https://x.com/kaotwebkan>

